

第 6 6 回東日本実業団陸上競技選手権大会

【出場結果】

実施日 : 5月18日(土) 1500m 10000m

5月19日(日) 5000m

会 場 : 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

出場者 : 親崎 達朗 小林 航央 関口 大樹 田中 龍誠

坪井 響己 三浦 剛

出場種目・出場者・リザルト

氏名	小 林	坪 井	親 崎	関 口	田 中	親 崎	坪 井	三 浦
種目	1500m	10000m	10000m	5000m	5000m	5000m	5000m	5000m
組	5 組	1 組	1 組	1 組	1 組	1 組	2 組	2 組
タイム	3'45"03	29'45"16	30'43"14	14'55"48	15'45"31	14'24"74	14'29"77	14'36"37
順位	7/15 位 総合 8 位入賞	4/19 位	9/19 位	17/31 位	24/31 位	9/31 位	17/25 位	19/25 位

【レポート】

今年度の東日本実業団陸上競技選手権大会は、久しぶりに地元である埼玉県熊谷市、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で二日間に亘って開催され、当社からは6名の選手が出場しました。

初日に開催された 1500m には、日本選手権出場標準記録（3 分 45 秒 00）を狙う小林が出場し、日本選手権のエントリー期限が 6 月 5 日と迫る中、記録を狙うには絶好のチャンスであるため、標準記録のクリアと入賞を意識してレースに臨みました。



目標達成のために積極的な走りを見せる小林

小林が出場した最終 5 組は、出場者の中でも上位のタイムを持つ有力選手が揃っており、400m の LAP が 60 秒を切るハイペースでレースは進み、小林も集団の中でレースの流れに乗って走りましたが、ラスト 1 周で先頭集団がスパートを仕掛けると集団から離れてしまい、最後の力を振り絞って懸命に前を追ったものの、惜しくも僅かに日本選手権標準記録に届かず、3 分 45 秒 03 でのゴールとなりました。狙っていた記録には届かず、悔しさの残るレースとなりましたが、順位としては総合 8 位入賞となる素晴らしい走りを見せてくれました。



正式タイムの発表を待つ小林

10000m1 組目に出場した親崎と坪井の 2 名は、先頭集団のペースに果敢に食らいつき、坪井は 5000m 以降はラスト 1000m まで先頭集団を引っ張り続け、最後はスパート争いで先頭から遅れましたが、29 分 45 秒台でのゴールとなり、力のある走りを見せてくれました。

親崎は 3000m 過ぎで先頭集団から離れ、その後は単独走になりましたが、持ち前の粘りのある走りで 30 分 43 秒でのゴールとなり、暑さを感じる厳しいコンディションの中で、しっかりと最後まで走り切りました。



厳しいコンディションの中、粘りの走りを見せた坪井と親崎

二日目の5000m 1組目には親崎、関口、田中の3名が出場し、前日の10000mから連戦となる親崎がラスト1000mまで先頭集団でレースを進め、ラストスパート争いで少し遅れたものの、14分24秒台でゴールしました。

2000m以降に集団から離れた関口は、ペースの落ち込みを最低限に留めて14分55秒台でゴールし、序盤から足取りの重かった田中は15分45秒台でのゴールとなり、悔しさが残るレースとなりました。



14分台の走りを見せた親崎と関口



中盤以降は走りに精彩を欠いた田中。次のレースに期待！

続く 2 組目に出場した坪井と、社会人初レースとなった三浦は序盤から 1000m のラップが 2 分 50 秒を切るハイペースに対応できず、集団の後方に位置してレースを進めました。

入社前に体調を崩し、練習が積み切れていない三浦は、2000m 過ぎで集団から離れる苦しい展開となりましたが、中盤以降にペースを持ち直し、その後は 1000m のラップが 3 分を切るペースを刻み、前方から落ちてくる選手を次々と抜き去って 14 分 36 秒台でゴールしました。

三浦は、万全な状態ではない中で及第点の走りを見せ、今後の活躍が期待されます。

前日に 10000m で好走を見せた坪井は、3000m 過ぎから表情が険しくなり、ペースが落ち始めましたが、何とか終盤も粘って 14 分 29 秒台でのゴールとなりました。



必死に先頭集団を追う坪井と三浦

【総 括】

この大会は、チームとしてシーズン前半の目標に位置付けていたレースでしたが、社会人デビュー戦となった三浦が今後の手応えを感じさせる走りを披露し、他の選手たちも昨年度と比較してレースの中で成長の一面を感じられる部分が見られ、一定の成果が得られました。

今後の活動としては、6 月 29 日に開催される全国男鹿駅伝競走大会に出場を予定しており、チーム最大の目標とする東日本実業団対抗駅伝競走大会の前哨戦として、勝ちに拘ったレースが出来るよう、引き続きチーム力の向上に努めて参ります。

今後とも皆様の温かいご声援を宜しくお願い致します。